

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070200817		
法人名	(有)創生活環境運営		
事業所名	グループホーム ひだまりの里さが		
所在地	松本市笹賀2517-3		
自己評価作成日	平成29年11月19日	評価結果市町村受理日	平成30年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.nsvakvo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?iigvo=2070200817
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	株式会社マスネットワーク
所在地	長野県松本市巾上9-9
訪問調査日	平成29年12月12日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

ホーム内の庭は、菜園と花壇があり、季節の花を植えて楽しめるように作り直しています。菜園では収穫した野菜を収穫し、食べる喜びを楽しんでいます。東屋を設置し、入居者様皆さんの憩いの場となっています。近くに信州スカイパーク、やまびこドームもあり、公園散策にも出かけしています。散歩途中に近くの喫茶店へ行き、コーヒーを飲み気分転換も行っています。中学生、地域・松本短大のボランティアの交流もあり、気軽に訪問できるホームになるように心掛けています。菅野中学校、松本短大の文化祭に出かけたりしています。いつでも面会や外出ができ、家族や友人との関係を大切にしています。行事は、家族会と一緒に企画を実施しています。他に、地域運営推進委員の役員と近隣住民にも参加して頂き、夜間想定避難訓練も行っています。医療連携では、協力医、訪問看護ステーションの協力を得ながら、終末期、看取り介護ができる環境を整えています。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

松本市笹賀下小侯地区の自治会の一員として2ユニット(定員18名)が運営されている。本社の有限会社創生活環境運営の社と共に事業所の使命、役割を反映した運営理念「大家族的な雰囲気の中で、個人の意思を尊重し、より人間的生き方を求め、家族、地域と共に支えあい社会に貢献します。」とケアの心構えを基本として地域密着型サービスの意義を踏まえ、理念の具現化に取り組んでいる。本社は、組織全体で学び合う姿勢や職員の個人的能力の発揮など人材の育成を目指している。安心して暮らすことができる場を提供したいという思いから質の高いサービス提供に努めている。利用者の居るところには必ず職員がいて、常に寄り添いながら温かい視線や声がけ、語らいが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(やまぼうし)		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(けやき)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	個人の尊厳を守ることを理念として、地域、家族との連携を大切にしている。社是をホーム内に掲示しており、意識して業務に入れるようにしており、研修の際にも理念の共有に力を入れている。(職員全員年1回以上研修参加)	本社の社是と共に事業所独自の運営理念を掲げている。ケアの心構えも含めて施設内の掲示板、玄関、職員ロッカーなどに明示されている。管理者と職員間で、理念について話合う機会を持ち、理解を深めている。日々のサービス提供場面で利用者のその人らしい生活と施設と地域との関係性を重視した理念を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	中学校や短期大学との交流を通して、繋がりを大切にしている。中学、短大の文化祭への参加は利用者も楽しみにしている。地域の方には協力を得ながら行事、夜間想定避難訓練を実施している。近隣の方と挨拶や日常会話を行っている。	松本市笹賀下小俣地区自治会に加入、地区敬老会への参加や回覧板がある。地域の中学校や短大の文化祭や音楽祭へ出掛けて交流を図っている。近隣に住む人達による施設行事や外出時にお手伝いなどふれあう機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	交流中学校での認知症講話を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月で会議を開催し事業所の利用情報や取り組みを報告している。夜間想定避難訓練では、運営推進会議で上がった提案、助言を活かして実施をしている。	会議メンバーは、行政、町会長、交番、消防団、地域住民、地域ボランティア、家族会役員など多岐にわたり構成されている。施設の運営内容や利用者、職員の状況など分かりやすい資料を基に事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合うなど、地域の理解と支援を得るため有意義に機能している。今年も避難訓練や季節行事に併用して会議が開催された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域運営推進会議では地域包括支援センターと連絡を行っているので、地域の情報など共有している。認知症サポーターキャラバンメイトの集いなど、共同企画を行っている。	保険者の松本市及び担当地区地域包括支援センター担当者とは、利用者の暮らしぶりやニーズなど伝え、協働関係の構築に向けて連携を図っている。保険者からの派遣相談員の定期訪問を受入れて、協力関係を築いている。会議や研修会には、積極的に参加して行政、地域の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	社内研修を行い、職員一人ひとりがしっかりと学び、周知徹底している。交通量の多い幹線道路沿いにある為、安全配慮し門扉は施錠しているが、門扉までは自由に出入られる環境となっている。利用者の要望があれば職員と共に自由に出入りできる。	本社企画による身体拘束、虐待及び不適切ケアの社内研修を実施して職員の共有認識を図っている。職員による見守りや声掛けを徹底して利用者の心身の状態をきめ細かく把握することで安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内で虐待防止についての研修を行い虐待防止に努めている。特に事例を使い、職員一人ひとりが自分のこととして考えられるよう学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を理解し、社会福祉士等の後見人から、制度活用についても学び、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分な説明をしている。変更、改定の際も、家族会での説明、文書による説明を行い、理解・納得していただけるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会記入表に意見欄を設け、意見や要望を記入してもらい、検討対応している。また、家族会や運営推進会議等で意見も運営に反映できるよう努めている	開所時より発足されている家族会は、施設で開催される季節行事や庭の清掃など中心になり活動されていて、施設と良好な関係にあり、意見や要望を聞き取る機会が多い。施設的全職員が家族の面会時には、意図的に働きかけて情報交換を密に取り、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けて、家族と話す機会を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	隔月事業所全体会議には管理者が参加し、出される意見や提案があった場合、本社管理者会議にて提案、説明をおこない、職員から出される意見も提案として受け止め、実施できるか精査している。管理者会議にて検討された後、経営者会議につなげている。	職員は、年2回(9月、3月)「自己啓発」シートを作成して個人目標、成果の検証を管理者と個別面談を実施して自己評価、職能評価を行っている。また、管理者は、日々の業務の中からも職員の運営に対する意見や要望を聞き取るよう声がけしたり、必要に応じて個別の面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	透明性の高い給与体制を作り、誰もがわかり易く向上心が持てるよう環境整備している。また、労使委員会を設置していることで、労働条件改善の交渉も行える環境を業務能力開発計画書を策定した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	会社にて年間の研修計画を立て、全員が研修を受ける機会を設けている。認知症ケア等の研修も積極的に職員を出している。事業所内でも、全体会議を使用し、ユニット毎のグループワークを活用した研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	月に一度、松本大学の教室にて同業者を交えた認知症、介護研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前には必ず事前訪問を行っている。必要に応じては数回の事前訪問を行い、顔なじみになる様に努めている。カンファレンスなどで、本人目線で職員同士意見を出し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の困りごと、要望等を聞き、サービスに反映するよう努めている。不安なことは話を聞き、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の意見を聞き、必要に応じて協力医とも連携し、その時必要な支援の検討をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームでの暮らしも今までの延長上にあると考え、今まで自宅でされてきた事は本人様出来ることをしていただき(調理、縫い物、庭仕事など)お互いが暮らしの仲間であると意識している。いろいろな話を聞くようにしている(食べたい物、行きたい所、やってみたい事など)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時の食事介助や外出等を呼びかけを実施している。季節の行事の企画運営を家族会と一緒にしている。面会に来た際は話をするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域支援者や友人との外出、手紙のやりとりができる。面会は自由で、今までの関係が終わらないよう努めている。 馴染みの方と会えなくてもその時の話をしていただき思い出話を聞いている。	電話の取次ぎ、便りや年賀状の手配など要望に対応して、これまでの繋がりを継続できる支援を実施している。また、利用者本人より行きつけの美容院や墓参りなど外出希望時には、家族と連絡を取り合い実現できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者一人ひとりの性格や行動や特徴を把握し、その人と気の合う方と関係を促し、時には職員が間に入り関わりを持つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	年賀状を送ったり、介護や認知症に関するフォーラムや講演への参加をお知らせしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向を直接言える関係作りに努めている。また、日常の会話から得た情報や昔はどんな生活をしていたかをもとに、ケア会議にて検討し、皆で共有できるように努めている。	日々の関りの中で利用者個々とゆっくり一緒に寄り添い過ごす時間を大切にして本人の意向の把握に努める工夫をされている。個々から得られた情報を具体的に会話した言葉や表情など個別のノートに記録して共有している。行事や面会時に家族から得られた情報も大切にして思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接等で本人、家族の話しや、個人ファイルとともに、日常の会話から今までの暮らし方などの環境や把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	少しの変化も気付けるようにケア会議の中で、その都度モニタリングを行い、利用者様の意向や現状等の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	面会時に家族の意向を伺ったり、協力医等から意見を伺ったりして、定期のケア会議にて本人の意向に即した介護計画作りをしている。	毎月開催のケア会議時に利用者個々の短期目標・サービス内容を項目ごとに具体的に評価している。本人や家族から生活に対する意向や関係者からの意見を活かして介護計画に反映している。職員は、介護計画の流れとチームケアの重要性を理解している。利用者の状態の変化が生じた際には、随時見直して現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノート等に、関わりや会話を記録し、職員間で日常の様子や身体状況などがわかるよう共有している。また、家族もみてわかりやすい様に記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新たなニーズに対しては、職員、家族等で話し合い本人の意向を尊重している。今までの馴染みの理髪店、かかりつけ医などはご家族に協力をいただき継続的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域ボランティアの方との畑仕事や地域のぶどう畑やリンゴ畑で交流をとおり、地域との繋がりがや生きがいを感じられるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医と連携し、本人家族の希望や今までのかかりつけ医も受診しながら医療連携している。必要に応じてご家族と医師が懇談できる機会を設けている。	地元の大池内科クリニックの協力医による受診体制がある。家族と連携を取り受診しているが都合がつかない時には職員が対応している。受診時には、事業所より施設独自の利用者様受診情報伝達表を作成して適切な医療が受けれる支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	契約看護ステーションが定期的に訪問しているので、職員は都度相談や対応方法など教えてもらったり、必要に応じて医師と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療相談員と連携し、入院時から入院先関係者、家族と懇談の機会を持ち、早期退院に向け準備をしている。退院前カンファレンスにより医療引継ぎを行い、その情報を協力医、看護ステーションに伝え、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に看取りケアをしていることを説明している。ターミナルが近くなった時点で、家族、協力医、関係者と話し合いを持ち、医療方針、終末期ケアへの説明と同意を持って終末期ケアを実践している。	入所契約時に重度化や終末期への対応について説明が行われている。利用者に変化が見られた時には、協力医、訪問看護ステーション、施設管理者と関係職員、家族らと話し合いがもたれ、本人・家族の意向を確認して同意書を得ながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の不測の事態に備え、マニュアルの作成、確認、訓練の実践を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月に1回の避難訓練のほか、年に1回地域運営委推進委員会の役員と近隣住民の協力で夜間想定避難訓練を行っている。また、災害に備え食料品や日用品の備蓄も行っている。	消防署の立会いを得て利用者の安全な避難方法を全職員が身につけるよう総合防災訓練が実施されている。月1回、火災における避難マニュアルを基に避難訓練の実施と防火管理者による自己点検表を用いて災害に対して年間を通じて実践的な取組がなされている。	施設独自の緊急連絡網が作成されているが、運用上で課題が見えてきたと相談を受けた。早期に万全な緊急連絡網の作成と毎月実施されている避難訓練の内容の充実を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている。	本人や周りの人が不快に思う言葉がけや対応を行わない様に、その人の尊厳を大切に する対応を心がけている	本社による社内研修を開催して利用者への 尊厳保持やプライバシーについて研修され て、日々の介護の中で実践するよう取り組 んでいる。個人ファイルは事務所で保管収納 されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	本人の想いを聞けるように関わり、やりたい 事やしたい事をなるべく実現できるように他 のスタッフと協力して関わっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴の希望があれば予定していなくても入浴 ができます。散歩に行きたいとの希望があれ ば散歩に出かけたり、利用者の希望に沿った 柔軟な日常が過ごせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している。	衣類購入の希望には一緒に買い物に出か け、好みの色、デザインの服を選べるよう同 行して。馴染みの美容院へ出かけたり、訪 問美容を利用して、好みのヘアスタイルがで きるよう職員が配慮し美容師に伝えている。 日常的に自分の服は自分で選べている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている。	自家菜園や同法人の豊科にある畑の一緒に 収穫した食材を使って、準備の段階から参加 し、食事が楽しみになるよう工夫している。調 理や片付け等できる範囲で携わって頂いて いる	利用者は、日常的に盛り付けや下膳など食 事の一連の作業に関わっている。職員と利 用者が同じテーブルを囲み、お喋りをしなが ら楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切に している。季節行事食や利用者誕生日の希望 献立と手作りケーキを囲んでお祝いをされて いる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている。	食事量については個人記録に記録している。 水分量については、医療的見地から必要な 方については別に記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている。	毎食後の口腔ケアを行っている。ご自分でな さる方、介助が必要な方それぞれ個別で支 援している。また義歯を使用している方は義 歯洗浄剤にて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定時の声かけや、トイレ誘導を行っている。また、日常の様子の変化などちょっとした動作を観察し、職員間で排泄リズムの検討を行っている	各ユニット1階と2階に2か所づつ広さの異なるトイレが設置されている。利用者全員の排せつチェック表が作成されていて、把握した排泄パターンに添いながら、常に職員は、排せつの自立を意識して声かけやトイレ誘導を積極的に行われている。利用者の排せつの自覚や訴えを尊重して、可能な限りトイレでの排せつ支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	繊維の多い食事を取り入れながら、申し送りノートに排便に関する記録を残し、職員間で共有している。水分を増やしたり、下腹部のマッサージ、歩行等、排便を促すよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴希望がある方は希望に沿う入浴をしている。希望がない方は、入浴の好みや間隔を考慮し入浴している。また、拒否がある場合は無理をせず、本人の気分を優先している。	月～土曜日、日に3名の利用者の入浴を入浴チェック表により管理、実施している。利用者の体調によりシャワー浴や足浴など個々に添った支援をしている。電気ヒーターや暖房ファンなど導入して脱衣場や浴室などの快適な温度管理や職員マンツーマンによる十分な声かけにより安全な入浴が出来るよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	寝具は本人の馴染みのものを用意し、ベッドや布団敷きも希望に沿っている。ホーム内にはソファや畳があり、いつでも休息がとれる環境を用意している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人記録に処方箋をファイルし、職員は必ず目を通すようにしている。薬が変わったり、変化があった場合は申し送りノートで共有し、会議等で周知徹底するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者にやりがいを感じて頂くために家事仕事や個々の趣味に合った支援をしている。気分転換に近くの公園や散歩、喫茶に出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物などの同行や、家族との外食、ドライブなど戸外へ行きたい希望があればできるだけ希望に沿えるよう努めている。	日常的に施設付近の散歩やドライブなどを取入れて気分転換を図り、ストレスを溜めないよう外出を活用している。春、弁当持参で近隣の中学校でお花見したり、お寺の牡丹見学など楽しんでいる。年に一回、利用者の希望に沿って家族の協力を得ながら諏訪大社やスイス村など外出計画を立て、大勢の利用者が戸外へ出る機会を多くなるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の希望者はいないため利用者は現在常時所持している人はいない、預かり金については、買い物の希望があればいつでも使えるように管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	スタッフと一緒に年賀はがきを書いて家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	手作りの日めくりカレンダー、その一か月の暦、行事や日々の写真を掲示、利用者様からことわざ等の脳トレーニングを行うために言葉を掲示しています。テレビが見やすい場所にソファやテーブルの配置の工夫、庭にある椅子も自由に使って過ごしやすい環境を工夫している。	窓からの採光も良く、明るく十分な自然光を取り入れている。ホールとキッチンが一体化して職員と利用者が常に関わりやすい環境にあり、利用者が集まる憩いの場となっている。車椅子対応のテーブルやソファなど利用者にとって使い易く配置されている。手作りのことわざクイズや行事の写真など丁寧に飾り付けにより暮らしの中のぬくもりを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	話の合う方、気の合う方と席を並べて会話が楽しく出来て、庭にある椅子も自由に使うことができるので、独りでの空間を作るように入居者様の過ごしやすいスペースに居られるように工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や親しみのある品を持ってきていただいたり、本人が認識できる時代の写真を飾ったり、本人にとっての居心地の良さについて家族を含めて一緒に考え、居室でくつろぐ事ができるような環境を工夫している。	居室には、タンス、エアコン、防災カーテンが用意されている。持ち込みに制限はなく、広い居室には、利用者や家族の希望で、使い慣れた家具や家族写真、思い出の品々などが置かれていて一人ひとりが落ち着いて過ごせる部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内はバリアフリー設計で、手すり等配置している。階段にはラインテープを貼り、安全に昇降できる工夫をしている。トイレ等の表示もわかりやすい表示にしている		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	①職員用緊急連絡網が現状のままの書式では一方通行のため上手く機能していない。 ②毎月実施している避難訓練の充実を図りたい。	①職員の個人情報に配慮し、電話だけでなく、メール、ラインを活用した新たな緊急連絡網の作成。 ②状況に応じた避難訓練の実施。	①夜間など利用者の特変時、防火防犯、災害などの場合別に対応した新たな緊急連絡網を作成する。 ②想定される事故、災害に合わせた訓練の仕組み作りと実施。マニュアルの見直し。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。